

# 「黒漆牡丹唐草螺鈿提重」 保存修復報告書

上江洲安亨\*1・室瀬和美\*2・大西智洋\*3

## 1 はじめに

財団法人海洋博覧会記念公園管財団首里城公園管理センター所蔵「黒漆牡丹唐草螺鈿提重」（以下、本作品）の保存修復処置は、平成22年6月より平成23年3月まで九州国立博物館内文化財保存修復施設6（目白漆芸文化財研究所九州支部）に於いて行われた。以下はその修復内容を記録したものである。

なお監督職員を上江洲安亨とし、修復責任者を室瀬和美、修復担当を大西智洋とした。また分析および報告書作成は監督職員ならびに修復責任者のもと、大西智洋がこれをおこなった。

## 2 概要

携帯用の弁当箱一式である。四段重箱、入角方盆、陶製徳利、盃を提鑲付きの枠に収めている。側面は宝珠形の透彫となっている。枠外面は黒漆塗で内面は朱漆塗である。天板、両側面、内部の重箱、方盆、盃に牡丹唐草文を螺鈿で施す。枠内上部に入角方盆を収める棚を設け、その下方に徳利を収めるため円形に一段落とす。外枠の縁には螺鈿で花菱文、入角方盆の棚には菱形文、透かし部分の縁には石畳文を施している。

木製漆塗（縦19.1 cm 横35.7 cm 高30.5 cm）



修復前 全景

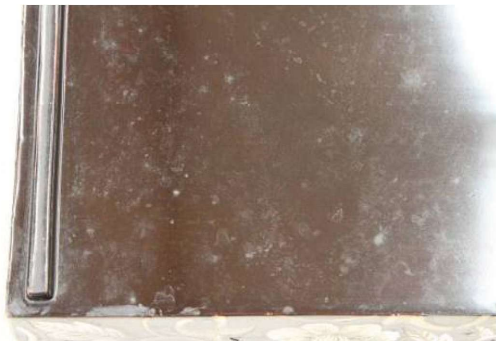
\*1 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター 事業課 調査展示係 係長

\*2 目白漆芸文化財研究所 修復責任者

\*3 目白漆芸文化財研究所 修復担当者

### 3 現状

全体に汚れが目立ち、黒漆塗膜はカビ等の白色汚れが覆い、枱内面の朱漆塗膜には白色汚れと共に茶色の汚れが付着していた。



重箱裏 カビ汚れ



提籠付き枱 内側の汚れ

経年の塗膜劣化と乾燥により全面に塗膜亀裂が生じ、剥離・剥落がみられた。また、螺鈿にも剥離・剥落が生じ、剥落した漆塗膜と螺鈿が別途保管されていた。

木地接合部から亀裂が生じ、木地構造に弛みが生じ始めているようであった。



提籠付き枱の側面 塗膜・螺鈿の剥離



別途保管されていた剥落螺鈿

### 3. 修復方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修復に則り、現状保存修復を原則として行う事とする。修復に際しては、十分に事前調査を行い、傷みの現状を確認した上で修復工程を決定する。また、写真撮影を伴った修復の記録を取り、修復後と比較できるようにし、修復終了後に報告書を作成し提出する。

### 4. 保存修復

現状確認作業に基づき、修復前に写真撮影を行った。

螺鈿の貝や塗膜がかなり浮き上がり、今にも剥落しそうな状態であるため、危険な箇所に薄い雁皮紙を短冊状に細かく切ったものを弱い糊で貼り付け、仮止めを行った。亀裂断文が全面に及びクリーニングが困難であるため、剥離螺鈿・塗膜の接着安定作業を優先して行った。

剥離螺鈿・塗膜の接着では膠を使用し、剥離状態を確認しながら接着安定作業を行った。膠は10%濃度の膠水として超音波洗浄器で振動を与え、表面張力を低下させたものを使用した。作業手順として、剥離箇所に膠水を流し入れ、ヘラで剥離箇所を動かし奥まで膠水が入っていくようにした。膠水がゲル化した後、

処置箇所をナイロン紙を当て、樹脂板とゴム板を組み合わせた当て材をナイロン紙上に重ねた状態で圧着固定を行った。ナイロン紙は余分な膠水を吸い、同時に圧着時の塗膜保護の役割としている。剥落して別途保管されている貝片は、位置が確認できたものが二カ所見つかり、本来の場所に戻し接着を行った。



剥離塗膜・螺鈿の接着安定処置  
(クランプ使用)



別途保管されていた貝片の位置が判明



接着安定処置時、ナイロン紙に余分な膠水が  
吸い取られている



接着安定

剥離した漆塗膜で、螺鈿に接していない箇所は、塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈し染み込ませ、圧着固定を行い接着した。



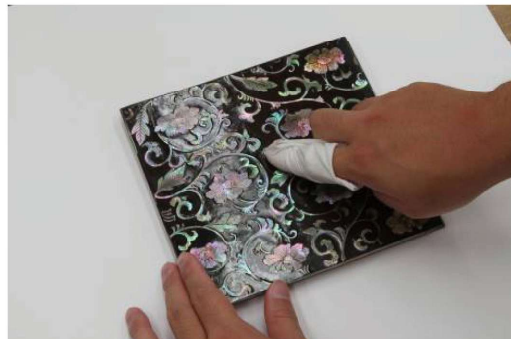
盃 欠損箇所周辺の剥離塗膜、麦漆接着

剥離螺鈿・塗膜の接着安定処置が終了後、表面汚れのクリーニングを行った。クリーニングでは柔らかい毛棒で塵や汚れを払い落とし、漆塗膜に傷が入らないように柔らかい木綿布に極少量の水分を与えたもの

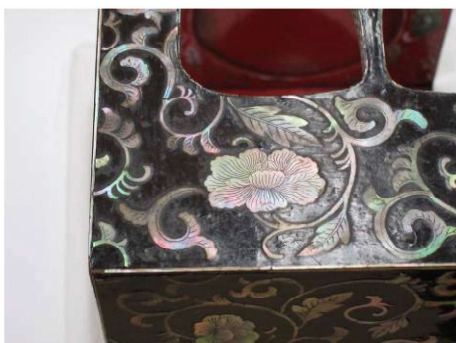
で少しずつ拭きとりながら除去作業を行った。水分のみで汚れの除去が可能であったため、アルコールを使用した除去方法は行わなかった。漆塗膜上に時代を感じさせる経年の汚れが残されているが、除去は行わないようにした。



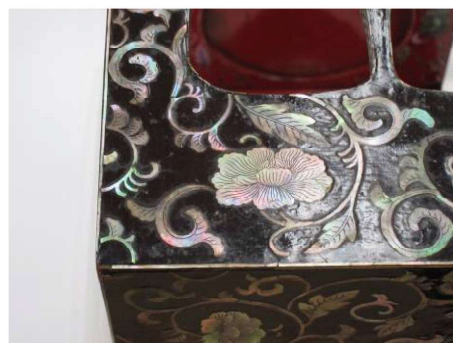
重箱見込み 塵や汚れを払い落とす



重箱蓋 水拭き

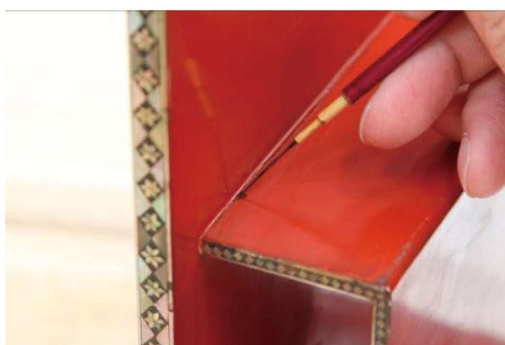


提鑲付き杵 クリーニング前



クリーニング後

木地接合部から亀裂が生じている箇所には、充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈し染み込ませ、接着安定処置を行った。

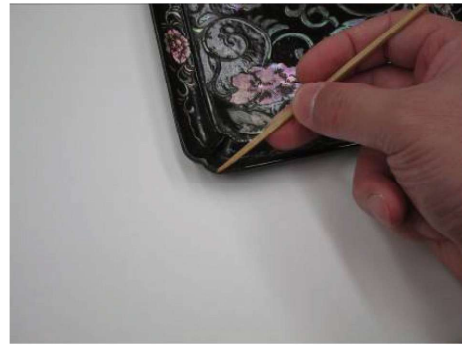


提鑲付き杵 亀裂箇所に麦漆含浸

欠損箇所は、刻苧で形態を戻し錆漆下地で表面を整えた。盃で欠けている箇所があるが、欠損部周辺の漆塗膜の安定処置のみを行い、形態の復元は行わなかった。



重箱蓋裏欠損部 刻苧充填

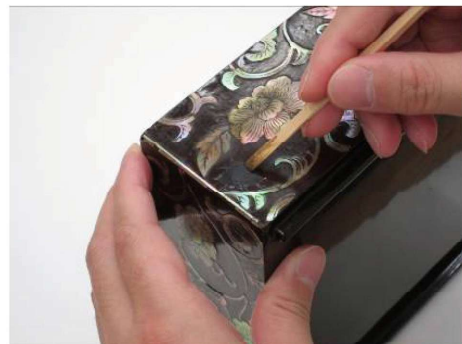


入角方盆欠損部 刻苧充填

螺鈿・塗膜の段差際に錆漆下地を施し触手による再剥離の防止処置を行った。劣化した漆塗膜と欠損箇所の錆漆下地に漆固めを行い仕上げとした。



陶製徳利が収まる所の塗膜段差、赤色の錆漆下地付け



重箱側面 塗膜段差に黒色の錆漆下地付け



錆漆下地箇所、漆固め



重箱裏 漆固め

## 5. 修復工程

- ①修理前撮影・記録
- ②剥離螺鈿・塗膜養生
- ③剥離螺鈿・塗膜接着
- ④剥落螺鈿接着
- ⑤クリーニング
- ⑥木地構造安定処置
- ⑦欠失部刻苧付け

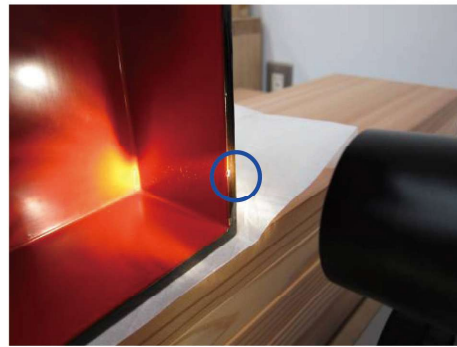
- ⑧同部、錆漆下地付け
- ⑨螺鈿・塗膜際に錆漆下地付け
- ⑩漆固め
- ⑪修理後撮影・記録
- ⑫報告書作成

## 6. 所見

本作品の損傷状態として、表面の螺鈿・塗膜の剥離が多く生じていた。塗膜の剥離・剥落箇所の観察を行うと、剥離面には漆塗りが施されており、剥離面の漆塗り層は丁寧に仕上げられている。概ね同じ漆塗り層から剥離・剥落が生じていることから、漆塗り層と下地層の食い付きが悪いことで生じた損傷であると考えられる。



マイクロスコープ 観察風景



重箱 観察箇所

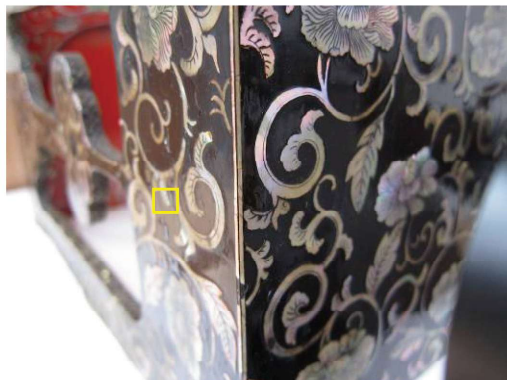


欠損箇所



欠損箇所拡大

下地欠損箇所の下は黒漆が塗られている



剥離・剥落箇所



剥離・剥落箇所拡大

剥離した下の層は、黒漆が塗られている



修復前



修復後



修復前



修復後



修復前



修復後



修復前



修復後



修復前



修復後